

**2019年度版 日本人学校の障害児受け入れ状況一覧**  
**<特別支援教育の現状・取り組みなど>**

このリストは2019年10月にGroup Withが全日本人学校に送付した「心身の発達に障害があり、特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に関するアンケート」に回答を頂いた学校のみを掲載しています。（送付先 92校 回答校 52校 更新掲載校 52校）

\* 記載内容は2019年9月1日時点のものです。内容はできる限りお答えいただいた形で記述しました。現在の状況や詳細については各学校にお問い合わせください

\* 掲載順：地域別・国別

作成 Group With  
<https://www.groupwith.info>  
[groupwith@nifty.com](mailto:groupwith@nifty.com)

**2019年9月1日現在**

**アジア**

中国	学校名	<b>上海日本人学校 虹橋校</b> <b>Shanghai Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.srx4.net.cn/">http://www.srx4.net.cn/</a>
	受け入れ	受け入れる
	条件	WISC3・4等の発達検査及び医師の診断・原籍校の担任からの情報・保護者及び本人との面接結果を基に、校内の就学指導委員会で検討・決定する 編入希望者はホームページに記載の案内に従い申し込み。特別支援編入学説明への出席 本人及び保護者との面接
	学年	小学校1年生から6年生
	特別支援学級	あり 名称：虹の子 定員：あり 問い合わせ先：虹橋校 電話又はメール
	取り組み	特別支援学級での学習と交流級での学習 特別支援教育コーディネーターの配置
	配慮	<教育面> 個別の支援計画の作成 <設備面> 特別支援学級を2学級専用として設置
	相談先	なし
	他の連携	なし
希望する支援	特別支援教育の資格を有し、指導経験のある教員の確保が必要 専門的知識を有する医療機関との連携	
中国	学校名	<b>上海日本人学校 浦東校</b> <b>Shanghai Japanese School Pudong Campus</b>
	ホームページ	<a href="http://www.srx3.net.cn/sjs-pudong/">http://www.srx3.net.cn/sjs-pudong/</a>
	受け入れ	WISCⅢ・Ⅳ等の発達検査及び医師の診断・原籍校の担任からの情報・保護者及び本人との面接結果を基に、校内の就学指導委員会で検討・決定する
	在籍者数	
	条件	編入希望者はホームページに記載の案内に従い申し込み。特別支援編入学説明への出席。本人及び保護者との面接
	学年	小学校生（在籍状況により変化）
	障害種類	知的障害、情緒障害等
	担当者/資格	担当者：2名
	特別支援学級	あり 名称：すずかけ学級 定員：あり 問い合わせ先：浦東校教頭
	取り組み	特別支援学級独自の学習を実施
	配慮	<教育面> 個別の支援計画の作成 児童生徒一人一人に交流学級を設け、主に学校行事を通して交流
	相談先	特になし
	他の連携	なし
希望する支援	特別支援教育の資格を有し、指導経験のある教員の確保が必要 専門的知識を有する医療機関との連携 進路相談。特に義務教育終了後について	
中国	学校名	<b>杭州日本人学校</b> <b>HANGZHOU JAPANESE SCHOOL</b>
	ホームページ	<a href="http://www.hzjschool.com/">http://www.hzjschool.com/</a>
	受け入れ	保護者・本人と面談の上、受け入れを検討する
	条件	保護者による送迎 もしくは、保護者会で運営する学校送迎バスに一人で長時間乗り、座っていただけること
	学年	面談により判断する
	担当/資格	専任の担当者・有資格者はいない
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）

	取り組み	・保護者が医療機関での受診結果を本校に提出し、個別の支援の仕方について担任や管理職と充分に相談したうえで通常の学級における指導を行っている ・毎月特別支援教育委員会を開き、個別の指導について確認、検討を行っている
	配慮	<教育面> 全校行事などでは、個別に休憩の回数を多くとるなどさせている <設備面> 特になし
	相談先	特別支援教育総合研究所・発達障害教育情報センター
	他の連携	なし
	希望する支援	カウンセラーの巡回指導など。ただし学校には予算はなく、国や関係機関による支援が必要
中国	学校名	<b>広州日本人学校</b> <b>Japanese School of Guangzhou</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jsqcn.com/">http://www.jsqcn.com/</a>
	受け入れ	原則受け入れていない 理由：支援体制が整っていないため（主に人的、施設・設備面等）
	条件	事前に相談を受け、検討後、本人・保護者と面談を行う。対象児童の学習、生活状況を確認の上、受け入れが可能かどうかを判断。理事会で承認。 （他の児童への学習・運動の機会を妨げる行動をしない。特別な支援が出来ないことを理解した上で、必要に応じ、保護者の付き添いを行える等）
	担当/資格	担当者なし
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	相談先	特になし
	他の連携	なし
	希望する支援	適切な人員を確保するための資金援助・補助 文科省による予算面、人事面での支援 特別支援教育の資格を有し、指導経験のある教員の確保 相談できる医療機関との連携
	中国	学校名
ホームページ		<a href="http://www.qingdaojs.org/">http://www.qingdaojs.org/</a>
受け入れ		状況に応じて、受け入れを判断する
条件		学校送迎バスに一人で長時間乗り、座っていることが難しい場合、保護者の登下校の送迎をお願いする
学年		面談時、状況に応じて判断
担当/資格		資格・免許はない
特別支援学級		なし（設置予定：なし）
取り組み		児童生徒指導担当が、特別支援教育コーディネーターを兼ねる形で取り組んでいる 個別の支援計画については、担任が、保護者と共有しながら作成していく 相談の際は、保護者からの意見や要望もお聞きしながら、学校ができる具体的支援、家庭の役割についても確認していく
配慮		<設備面> 車いす対応のトイレ・エレベーターの設備
相談先		児童生徒が日本で関わった専門機関との情報共有
他の連携	児童生徒が転出する場合、転出先に状況を伝えることは実施している	
希望する支援	特別支援学校教諭免許がある教員の配置 学校で、特別支援教育に対する体制を構築すること 運営理事会、保護者等、学校関係者の理解	
台湾	学校名	<b>台北日本人学校（台北市日僑学校）</b> <b>Taipei Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.taipeijs.org/">http://www.taipeijs.org/</a>
	受け入れ	受け入れる
	在籍者数	4名（2019/9/1現在） * 教職員数及び学校施設の関係で、4名を上限としている
	条件	校内審査（特別支援教育・就学委員会）で認められた児童 ※但し、医療的なケアが必要な児童は、不可
	学年	小学部 1年～6年 児童
	障害種類	軽度発達障害 <LD,ADHD 等>、高機能自閉症、知的障害、情緒障害
	担当者/資格	特別支援学校教諭免許保有者 1名 特別支援教育経験者 1名
	特別支援学級	あり 名称：ひまわり 定員：4名（2019/9/1現在） 問い合わせ先：教頭
	取り組み	○学級担任とは別に、特別支援教育コーディネーターを配置し、特別支援体制の整備・調整をおこなっている ○個別の支援計画を作成し、個人の学習目標などを定期的に点検している
配慮	<教育面> 最終的な“自立”を目標に立てそこに向けて、交流学級での学習で必要な時間と個別指導の時間を調整したり人的な配置をおこなったりしている <設備面> 子どもたちが、落ち着いた環境で学習ができるように配慮している。従って、個別の空間と学級活動ができる空間を特別支援学級内に設置している	
相談先	臨床心理士の会 With Kids その他、スクールカウンセラーが、現地の病院や施設との連絡調整をおこなっている。また、定期的に特別支援教育のサークルや相談会を実施している	

	他の連携	現地校の特別支援学校及び特別支援学級を定期的に訪問し、受け入れについて協議をしているが大きな問題は言葉の壁である。保護者の言葉の壁であったり、発達段階での外国語による教育の影響を懸念したりすることでの就学に対する懸念が大きい
	希望する支援	○学校内に、専門的な知識を有する職員を配置することが必要だと考える ○教頭を含め管理職の正しい認識と、特別支援教育を推進しようとする意欲が必要だと考える
台湾	学校名	<b>台中日本人学校(台中市日僑学校)</b> <b>Taichung Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://tjs.ehosting.com.tw">http://tjs.ehosting.com.tw</a>
	受け入れ	教職員数や教室の関係から、これ以上の受け入れはとても困難な状況ですが、障がいの内容や程度、諸条件等を勘案して、総合的に判断します
	条件	○事前に障がいの内容や程度を詳しくお知らせください ○保護者及び本人と面談し、例えば、お子さんと一緒に登校し学校生活の支援をするような、保護者の全面的な協力が得られること
	担当/資格	資格：特別支援学校教諭免許保有者 1名（特別支援学級担当）
	特別支援学級	あり 名称：やしのみ
	相談先	あり（臨床心理士の会 With Kids）
	他の連携	特別支援教育に関しては、今のところしていない
希望する支援	専門的な知識・技能を有する教員の配置、教室の確保、保護者の協力	
台湾	学校名	<b>高雄日本人学校（高雄市日僑学校）</b> <b>Kaohsiung Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.kjs.kh.edu.tw/">http://www.kjs.kh.edu.tw/</a>
	受け入れ	障害の内容程度により、諸条件と併せて受け入れを判断する
	障害種類	障害の内容程度により、諸条件と併せて受け入れを判断する
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	配慮	<教育面> 教科により複数教員の配置 <設備面> 身障者用のトイレは、各校舎各階に配置
	相談先	特になし
	他の連携	なし
	希望する支援	専門教員の配置、障害に応じた教材教具・環境整備、保護者との連携が大切だと考える
タイ	学校名	<b>泰日協会学校（バンコク日本人学校）</b> <b>Thai-Japanese Association School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.tjas.ac.th/">http://www.tjas.ac.th/</a>
	受け入れ	受け入れる
	在籍者数	20名（2019/9/1現在）
	条件	保護者及び本人との面接結果を基に、校内就学指導委員会で検討の上、学校長の判断の下に決定する
	学年	小学部1年生から小学部6年生 ※中学部には設置していない
	障害種類	知的障害または自閉症・情緒障害特別支援学級への就学が適切であると判断される児童
	担当者/資格	担当者：6名（特別支援学校教諭免許保有者 3名）
	特別支援学級	あり 名称：なかよし学級 問い合わせ先：小学部教頭
	取り組み	・特別支援学級における通常学級との交流学習、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成 ・特別支援コーディネーターの設置 ・スクールカウンセラー週3日来校
	配慮	<教育面> ・個別学習、小集団での学習など、様々な形態で学習を行っている ・個々の実態に応じて、交流学級での教科や参加形態を決めている  <設備面> ・3学級3教室体制 ・主に学年を基準として学級を分けている
相談先	特になし	
他の連携	日本の学校からの転入、日本の学校への転出時には、必要に応じて情報交換を行っている	
タイ	学校名	<b>泰日協会学校シラチャ校（シラチャ日本人学校）</b> <b>Thai Japanese Association School Sriracha</b>
	ホームページ	<a href="http://www.tjas.ac.th/">http://www.tjas.ac.th/</a>
	受け入れ	事前に保護者と十分な話し合いを行い、受け入れが可能かをお伝えする。 （なるべく早い段階で、本校ホームページの問い合わせフォーム「特別な配慮を要するか」の欄で「配慮を要する」にチェックを入れてご相談いただきたい）
	在籍者数	名（2019/9/1現在）
	条件	本校の施設・人員体制での受け入れが可能と認められること
	学年	小学部全学年
	障害種類	要相談
	担当/資格	担当者：1名 資格：特別支援学校教諭免許保有者
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	・特別支援教育コーディネーターを設置している ・通級指導教室を設置している ・学校カウンセラーが毎月1回程度来校するため、必要に応じて連携を図る
	配慮	<教育面> ・通級指導教室にて個別の支援を行う ・通級指導教室に通う児童について、個別の教育支援計画を作成し活用している ・支援や配慮を要する児童生徒について、ケース会を開いたり、特別支援教育コーディネーターと担任、保護者とで支援方法を検討したりする

		<設備面> 通常の教室の半分の大きさで、通級指導教室を2教室設置している
	相談先	特になし
	他の連携	転入時や転出時には、保護者の了解の下、必要に応じて、前籍校や医療機関、教育委員会等と情報交換を行う
	希望する支援	・特別支援教育の資格と経験を有している教員の恒常的・安定的確保 ・医師や臨床心理士等による継続的な相談窓口
シンガポール	学校名	<b>シンガポール日本人学校小学部チャンギ校</b> <b>The Japanese School Primary School, Changi Campus</b>
	ホームページ	<a href="http://www.sjs.edu.sg/changi/">http://www.sjs.edu.sg/changi/</a>
	受け入れ	シンガポール日本人学校チャンギ校に加え、クレメンティ校も特別支援学級（知的障害、自閉・情緒障害学級）と通級指導教室（情緒）を令和元年度開設した（各々学区あり）
	在籍者数	特別支援学級16名 通級指導教室10名（2019/9/1現在）
	条件	原則として障がいの程度や受入体制などを考慮し、年に一回10月の就学指導委員会で面接・児童観察等を実施して判断する（令和二年度の編入学の申込期間は令和元年9月1日から27日（金）17時まで）
	学年	小学校1年生から6年生
	障害種類	知的障害、自閉・情緒障害、発達障害など
	担当/資格	担当者：特別支援教育コーディネーターを含む15名（教諭8名・支援員7名） 資格：特別支援学校教諭免許保有者 7名 特別支援教育経験者 10名
	特別支援学級	5学級あり ・シリュス1～3（知的障害）・アルタイル1～2（自閉・情緒障害） 他に、通級指導教室（情緒）あり（スピカ教室1～2） 定員：あり 問い合わせ先：「特別支援教育について」小学部チャンギ校、「編入学について」シンガポール日本人学校事務局
	取り組み	（1）特別支援教育コーディネーターを中心にインクルーシブ教育を展開 （2）保護者との就学・進路相談や個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成により、継続的で発展的な支援を実施 （3）通常学級におけるユニバーサルデザイン授業の研究推進
	配慮	<教育面> 個の障がいや成長に応じた教材教具を活用し授業を行っている 自立活動や生活単元学習など、体験的な学習の充実を図っている <設備面> 特別支援教室（自動ドア、トイレシャワー等の設備あり）、エレベーター、バリアフリーなど
	相談先	国立特別支援教育総合研究所、シンガポール日本人会クリニック、ラッフルズジャバニーズクリニック等
	他の連携	《現地校との連携》必要に応じて情報の入手などを実施する 《情報交換について》必要に応じて、前籍校や帰国先の学校等と実施
	希望する支援	特別支援教育を担当する文科省派遣の教員配置、施設・設備の整備
マレーシア	学校名	<b>クアラルンプール日本人学校</b> <b>The Japanese School of Kuala Lumpur</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jskl.edu.my/">http://www.jskl.edu.my/</a>
	受け入れ	受け入れる
	在籍者数	1名（2019/9/1現在）
	条件	通常学級で自立して生活できること
	学年	
	障害種類	軽度発達障害<LD,ADHD等>、知的障害、情緒障害
	担当者/資格	特別支援学校教諭免許保有者 1名
	特別支援学級	あり 名称：なかよし 定員：1名（2019/9/1現在）
	取り組み	個別の学習支援計画作成、支援が必要な児童生徒実態調査及び指導法のアドバイス
	配慮	<教育面> 特別な支援を要する児童でも通常学級内において支援員を必要としないことが入学条件となっている <設備面> 肢体不自由児を受け入れる環境が整っていない。バリアフリー未整備
	相談先	特になし
	他の連携	特になし
	希望する支援	特別教育支援学級在籍児童の編入学希望が多数寄せられている。特別支援学級体制について今後も学校理事会と協議の上、改善を図って参りたい
マレーシア	学校名	<b>ペナン日本人学校</b> <b>Penang Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.mypjs.com/">http://www.mypjs.com/</a>
	受け入れ	受け入れは困難である 理由：現在の施設及び教員の実情から受け入れる余裕がない
	在籍者数	0名（2019/9/1現在）
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）

	取り組み	各学級における軽度発達障がいがあると思われる児童生徒への支援 (サポート役の教員の配置)
	相談先	特になし
	他の連携	学校間交流として、複数の現地校と定期的な児童生徒の交流は行っているが、特別支援に関する具体的な情報交換の例はまだない
	希望する支援	担当する教員の人的配置と教員自身の特別支援教育に関する理解と実践的な対応に関するスキルアップが必要。施設に関しても教室等の増築のための予算確保が必要である
インドネシア	学校名	<b>ジャカルタ日本人学校</b> <b>Sekolah Jepang Jakarta</b>
	ホームページ	<a href="http://www.ijs.or.id/">http://www.ijs.or.id/</a>
	受け入れ	・本校には特別支援学級が設置されておりません。そのため、現在、特別支援学級や特別支援学校に通級しない在籍している児童生徒に対し、同様の支援を行うことはできないため、入学をお断りしている ・医療的なケアが必要な児童生徒の入学もお断りしております。児童生徒が介助や補助を必要とせず自立して学校生活を送る能力を有すると、本校が認めた場合に入学を許可する
	学年	小学部1年から中学部3年
	担当/資格	担当者：3名 資格：特別支援学校教諭免許保有者 3名（特別支援教育経験あり）
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	通常の学級に在籍する軽度の障がいをもつ児童に対し、国語・算数を中心に「取り出し授業」を実施
	配慮	<教育面> 個別の支援計画に基づく教科指導の実施 <設備面> エレベーター設置
	相談先	特になし
	他の連携	ケースに応じた連携、情報交換を実施
希望する支援	・特別支援教育の資格を有し、指導経験のある教員の恒常的・安定的確保 ・学習環境の整備 ・保護者及び教員を対象にした専門家（医師や臨床心理士等）による継続的な相談窓口やスーパーバイズ機能	
インドネシア	学校名	<b>バンドン日本人学校</b> <b>Bandung Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.bjs.sch.id/">http://www.bjs.sch.id/</a>
	受け入れ	どんな支援が必要であるかを協議させていただき、保護者の協力もいただきながら、できるだけ受け入れる方向で考えている
	在籍者数	0名（2019/9/1現在）
	条件	教員の数が限られておりますので、支援の内容によっては難しいかもしれませんので、まずはお話をさせていただく
	障害種類	知的障がいや情緒障がい、聴覚障がい、身体的な障がいなど支援の内容によっては受け入れ可能
	担当/資格	担当者：特別支援教育コーディネーター 資格を持っている教員も複数名いる
	特別支援学級	なし（設置予定：今のところなし）
	他の連携	なし
	希望する支援	（1）教員定数増が望ましいが、現状では教員配偶者や障がい児童生徒の保護者の協力をいただくことが必要だと思います （2）教室等の環境整備 障がいによっては車いす対応等の必要が出てきます （3）教員の特別支援教育に対する研修
インド	学校名	<b>ニューデリー日本人学校</b> <b>Japanese School New Delhi</b>
	ホームページ	<a href="http://www.ndjs.org/">http://www.ndjs.org/</a>
	受け入れ	W I S C III・IV等の発達検査及び医師の診断、原籍校からの情報、保護者及び本人との面接結果を基に、校内の就学指導委員会で検討・決定する。
	条件	編/転入希望者は、info@ndjs.net 宛に事前に問合せ、本人及び保護者との面接を行う
	学年	小中学校生（在籍状況により変化）
	障害種類	情緒障害
	担当/資格	担当者1名/特別支援学校教諭免許保有
	特別支援学級	あり、定員あり、問合せ：本校教頭
	取り組み	特別支援学級での学習支援と交流級での学習、特別支援教育コーディネーターの配置（特別支援学級担任が兼任）
	配慮	<教育面> 個別の支援計画の作成、<施設面> 特別支援学級としてカウンセラールームを使用
相談先	本校スクールカウンセラー（非常勤）	
他の連携	特になし	
希望する支援	近年の急激な児童生徒数の増加に伴い、支援を要する児童生徒も急増しているため、特別支援教育に係る派遣教師増員の支援を希望する。	
インド	学校名	<b>ムンバイ日本人学校</b> <b>Japanese School of Mumbai</b>
	ホームページ	<a href="http://japanese-school-of-mumbai.jimdo.com/">Japanese-school-of-mumbai.jimdo.com/</a>
	受け入れ	受け入れは困難である 理由：少人数学校のため、受け入れ対応できる職員がいないため
	他の連携	現地校との情報交換はありません（児童生徒の実態によって、必要に応じて行う）
希望する支援	受け入れるための、人的、物的（教室等）な保障が必要と考えます。また全職員が特別支援教育に対する理解を深めるための、情報提供・研修の機会などがあるとありがたい	

ベトナム	学校名	<b>ハノイ日本人学校</b> <b>The Japanese School of Hanoi</b>
	ホームページ	<a href="http://www.10.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=4810002">http://www.10.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=4810002</a>
	受け入れ	受け入れは困難
	他の連携	特になし
	希望する支援	人的、物的な支援支援体制 特に特別支援教育に造詣の深い教員の確保と 施設・設備面の充実
スリランカ	学校名	<b>コロンボ日本人学校</b> <b>Japanese School in Colombo</b>
	ホームページ	<a href="http://srilanka.jscol.com/">http://srilanka.jscol.com/</a>
	受け入れ	受け入れ困難 理由：現在の施設及び教員の実情から受け入れは困難である
	希望する支援	人員の確保
バングラデシュ	学校名	<b>ダッカ日本人学校</b> <b>Japanese School Dhaka</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jsdhaka.com/">http://www.jsdhaka.com/</a>
	受け入れ	受け入れは困難 理由：人的物的環境が整っていない
	他の連携	発達障害に関わる連携や情報交換はない
	希望する支援	専門職員の派遣
フィリピン	学校名	<b>マニラ日本人学校</b> <b>Manila Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.mjs.org.ph/">http://www.mjs.org.ph/</a>
	受け入れ	受け入れは困難である
	在籍者数	0名（2019/9/1現在） * 但し、日本語が不十分な児童には、特別指導をしている
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	特別支援委員会を設置し、境界線児並びに日本語未習熟児童など特別に支援を必要としている児童生徒の指導について検証し、対応している。（特に本校では、日本語が不十分な児童には、保護者と連携し週1時間日本語学習を行っている）
	配慮	<教育面> 特になし <設備面> バリアフリー
	相談先	特になし
	他の連携	特になし
	希望する支援	専門教員の配置。このことがないと障害児を受け入れることは、日本人学校では難しい 日本人学校の人員は減らされているため、普通学級を運営するのも難しくなっている
ミャンマー	学校名	<b>ヤンゴン日本人学校</b> <b>Yangon Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://neoyjs.web.fc3.com/">http://neoyjs.web.fc3.com/</a>
	受け入れ	受け入れは困難 理由：人的な面での体制が整っていないため
カンボジア	学校名	<b>プンベン日本人学校</b> <b>Phnom Penh Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jacam.cc/jspp/">http://www.jacam.cc/jspp/</a>
	受け入れ	受け入れは困難 理由：支援する教員がない、サポート体制が現時点整っていない。
	他の連携	現地校との情報交換は現時点ではない
希望する支援	支援する教師及び保護者と児童の相談を受けるカウンセラーが必要だと考える	

## 北米

米国	学校名	<b>ニューヨーク日本人学校</b> <b>The Japanese School of New York</b>
	ホームページ	<a href="http://www.gwjs.org/">http://www.gwjs.org/</a>
	受け入れ	受け入れ条件を満たす範囲で受け入れる
	在籍者数	
	条件	自力でバスでの登校ができること、身辺自立ができていないことなど * その他詳細については、お問い合わせください"
	学年	小学校1年生～中学校3年生
	障害種類	発達障害、知的障害等
	担当者/資格	担当者：特別支援担当（免許保有）、特別支援コーディネーター
	特別支援学級	あり 名称：アップル学級 定員：特に定めない 在籍者：3名（2019/9/1現在） 問い合わせ先：ニューヨーク日本人学校
	取り組み	校内IEP（Individualized Educational Program：個別教育プログラム）と教育支援計画を作成し、児童生徒のニーズに即した支援を実践している。また、アメリカの査定システムを参考にして支援の幅を広げている
	配慮	<教育面> 通常学級に在籍する発達障害児童生徒に対しては、リソースルーム（学習室）にて取り出し授業やTT（Team Teaching）、PUSH INなどの支援の工夫をしている <設備面> リソースルーム（学習室）の設置。アップル学級では、ニーズに応じた個々の指導やグループ支援ができるよう座席や複数教室を使用するなどの工夫をしている
	相談先	特になし

	他の連携	ニューヨーク教育審議会の専門のスクールサイコジストと連携をとりながら支援している
	希望する支援	障害の種類、程度、これまでの経験などによるそれぞれの教育的ニーズの違いに対応できるだけの支援体制の整備が必要である。 ・専門教員の配置・教材、教具の充実・施設、設備の整備・個々のニーズに即した柔軟なカリキュラムの実施・専門機関との連携など
米国	学校名	ニュージャージー日本人学校 <b>The New Jersey Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://newjerseyjapaneseschool.org">http://newjerseyjapaneseschool.org</a>
	受け入れ	受け入れは困難である 理由：毎年検討はしているが、現時点では施設設備及び人的側面において対応が困難である
	相談先	日本の相談先は特になし * 現地のニューヨーク教育審議会のスクールカウンセラーに特別支援教育の職員研修、子どもたちの見取りや指導の在り方についての指導助言をもらっている
	他の連携	現地校との交流は行っているが、編入時の情報提供はない
	希望する支援	施設設備及び人的な環境の整備が必要と考える。また、それを支える財政的な保証も必要と考える

## 中南米

アルゼンチン	学校名	ブエノスアイレス日本人学校 <b>Asociacion Cultural Y Educativa Japonesa</b>
	ホームページ	<a href="https://jpschoolarg.wixsite.com/mysite">https://jpschoolarg.wixsite.com/mysite</a>
	受け入れ	受け入れる
	担当/資格	1名（特別支援教育コーディネーターとして。特別支援教育の経験がある）
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	特別支援教育コーディネーターを置き、対応できるようにしている
	相談先	特別支援教育総合研究所・発達障害教育情報センター
	他の連携	一般的な情報交換はあるが、特別支援に関する情報交換はない。ただし、必要に応じて特別支援に関する現地の情報を得ることはできる
	希望する支援	その都度、相談
コスタリカ	学校名	サンホセ日本人学校 <b>Escuela Japonesa de San Jose</b>
	ホームページ	<a href="http://www.escuelaj.com/">http://www.escuelaj.com/</a>
	受け入れ	受け入れ対応が厳しい（資格所有者、担当経験者等に異動があったため）
	他の連携	現在特に行っていない
	希望する支援	通常学級でも複式授業を行っている状態なので、人的支援が必要である
コロンビア	学校名	ボゴタ日本人学校 <b>Asociacion Cultural Japonesa</b>
	ホームページ	<a href="http://www.bogotaaci.com/">http://www.bogotaaci.com/</a>
	受け入れ	受け入れが困難である 理由：専門的に指導することのできる教員がいない 施設・設備を整備することができない
	在籍者数	0名（2019/9/1現在）
	他の連携	児童生徒の転入転出時など、生徒の進学時には進学先学校と情報交換を行っている
	希望する支援	専門的に指導できる教員の派遣 障害の程度に応じた施設・設備を整備するための財源
チリ	学校名	サンチャゴ日本人学校 <b>Santiago Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.iejapones.com/">http://www.iejapones.com/</a>
	受け入れ	受け入れは困難である 理由：特別支援学校教諭免許を持った教員がいない。教員数に余裕がない。受け入れに必要な学校環境が整っていない
	他の連携	特になし ・特別支援教育の経験者
	希望する支援	・教員数の増 ・学校環境の整備
パナマ	学校名	パナマ日本人学校 <b>Escoela Japonesa de Panama</b>
	ホームページ	<a href="http://panama.lolipop.jp/">http://panama.lolipop.jp/</a>
	受け入れ	受け入れる
	在籍者数	0名（2019/9/1現在）
	条件	特に定めていない。受け入れに際し校長との面談を実施
	学年	特に制限なし
	障害種類	特に制限は設けていない。事前にご相談を。施設・設備面で、準備できないこともあるのでご了承をお願いしたい
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	特別支援教育部会を校内に設置し特別な支援を要する児童生徒に適切な指導と評価が行えるようにしている 特別な支援が必要な児童生徒が入学・編入した場合は、免許を所有している教員がコーディネーター役となって学習活動を推進していくようにする
	配慮	<教育面> 在籍児童生徒数が少人数のため、教材や課題への配慮は可能である <設備面> 設備上の配慮は現在のところ無く、今後も難しい
	相談先	特になし

	他の連携	現地校への転出の場合、相談に応じている 補習校は当地には無い
	希望する支援	本校は小規模校のため、教員の加配は困難な状況 したがって、学校・保護者・日本人会が連携・協力しながら、支援体制を組んでいく必要がある
ブラジル	学校名	<b>サンパウロ日本人学校</b> <b>Sociedade Japonesa de Educacao e Cultura</b> <b>(Japanese School of Sao Paulo)</b>
	ホームページ	<a href="http://world.nethall.com.br/spescolaip/">http://world.nethall.com.br/spescolaip/</a>
	受け入れ	個々の状況に応じて、協議・検討の上決定する
	条件	協議・検討の上決定する
	学年	小学部1年生から小学部6年生
	障害種類	知的障害、発達障害等
	担当者/資格	特別支援教育の免許状を保有している教員がいる
	特別支援学級	休級 名称：sabiá (サビア) 学級 問い合わせ先： 本校教頭
	取り組み	児童生徒支援委員会の設置。コーディネーターを中心に校内で情報交換を行い指導にあたる 全職員で、特別支援教育の研修を行っている
	配慮	<教育面> 特別支援委員会を設置し、配慮事項の情報交換をして指導にあっている また、特別支援学級の児童には、個別指導計画を作成し個に応じた指導を行っている  <設備面> 校内のバリアフリー化を進めスロープ、障害者用トイレ、エレベーター等を設置している
相談先	あり（国立特別支援教育総合研究所）	
他の連携	現地校と情報交換をし、指導に役立てる	
希望する支援	校務分掌組織内への位置づけをし、情報の共有化をはかること 担任をバックアップする学部、学校の支援体制 医療等、専門機関との連携 保護者との連携	
ペルー	学校名	<b>リマ日本人学校</b> <b>Asociacion "Academia de Cultura Japonesa"</b>
	ホームページ	<a href="http://www.acjlima.edu.pe/">http://www.acjlima.edu.pe/</a>
	受け入れ	受け入れが困難である 理由：現在のところ指導教員、施設、予算等の整備ができていないため
	配慮	<設備面> 一階のトイレは手すり等が設置され、身体障がいに対しての設備整備は行っている
	相談先	特になし
	他の連携	交流のある現地日系校との情報交換はできる
	希望する支援	人的・設備的な予算措置と保護者との意思の疎通が必要
メキシコ	学校名	<b>アグアスカリエンテ日本人学校</b> <b>Escuela Japonesa de Aguascalientes,A.C.</b>
	ホームページ	<a href="http://escuelajaponesa.net">http://escuelajaponesa.net</a>
	受け入れ	日本国籍をもち、普通学級に在籍している児童生徒を受け入れの対象とする
	条件	上記【受け入れについて】を参照のこと
	学年	特になし
	特別支援学級	なし（設置予定： なし）
	取り組み	特別支援担当を中心に、個別支援計画を作成して支援にあっている サポート会議を開き、個別の支援について情報共有を行う 子どもたちの状況を把握し、適切な支援について話し合い、進捗状況や今後の方針について検討する
	相談先	臨床心理士の会 With Kids、海外子女教育振興団体
	他の連携	なし
	希望する支援	専任の教師、教室の整備、教師の研修体制、教材備品の整備、医師による診断と助言、 専門機関との連携 養護教諭

## 欧州

イタリア	学校名	<b>ローマ日本人学校</b> <b>Scuola Giapponese di Roma</b>
	ホームページ	<a href="http://www.scuolagiapponeseroma.it/">http://www.scuolagiapponeseroma.it/</a>
	受け入れ	受け入れは困難である 理由：特別支援学級がない。新設しても教員数が足りない
	他の連携	なし
	希望する支援	① 特別支援学級の新設、②教諭の増員、③ ①と②に対する経済的措置
イタリア	学校名	<b>ミラノ日本人学校</b> <b>Scuola Giapponese di Milano</b>
	ホームページ	<a href="http://www.mngitalia.net/">http://www.mngitalia.net/</a>
	受け入れ	受け入れが困難である 理由：施設・設備、スタッフ等未整備のため
	担当者/資格	資格者はいない
	特別支援学級	なし（設置予定： なし）

	配慮	<教育面> 座席配置、車いす体験など <設備面> なし
	相談先	特になし
	他の連携	なし
	希望する支援	人員の確保、施設設備の整備
オーストリア	学校名	<b>ウィーン日本人国際学校</b> <b>Japanische Internationale Schule in Wien</b>
	ホームページ	<a href="http://www.japaneseschool.at/">http://www.japaneseschool.at/</a>
	受け入れ	受け入れる
	在籍者数	0名(2019/9/1現在)
	条件	特になし、介助を必要とするお子様については保護者の付き添いをお願いしたい また、校内に身障者用のトイレ等の設備がないことをご理解いただきたい
	学年	全学年
	障害種類	軽度発達障害<LD,ADHD等>、高機能自閉症、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、情緒障害
	担当/資格	(○) 資格・免許がある 今年度、免許のある教員はいるが、毎年いるとは限らない
	特別支援学級	なし(設置予定: なし)
	取り組み	校務分掌として、特別支援チームを設置している
	相談先	With Kidsからの紹介によるカウンセラー
他の連携	特になし	
希望する支援	人員配置	
オランダ	学校名	<b>ロッテルダム日本人学校</b> <b>The Japanese School of Rotterdam</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jsrotte.nl">http://www.jsrotte.nl</a>
	受け入れ	受け入れが困難である 理由: 人的、物理的に整備が整っていない
	在籍者数	0名(2019/9/1現在)
	特別支援学級	なし(設置予定: なし)
	取り組み	該当の児童・生徒へのサポートづくり(教職員の共通理解)
	相談先	特になし
	他の連携	必要に応じて行う
	希望する支援	人的配置
	スイス	学校名
ホームページ		<a href="http://www.jszurich.ch/">http://www.jszurich.ch/</a>
受け入れ		受け入れが困難である
ロシア	学校名	<b>モスクワ日本人学校</b> <b>Japanese School in Moscow</b>
	ホームページ	<a href="http://www.mosnichi.com/">http://www.mosnichi.com/</a>
	受け入れ	受け入れが困難である 理由: 人的、施設的に余裕がない状況下で、専門的な指導教員がおらず、講師確保の目的も立たない 身体に障害がある児童生徒についても、施設は健康者を対象とした建物で借用校舎の4階・5階に教室があり、エレベーター等なく、改修は不可能である
	相談先	特になし
	希望する支援	専門的教員の配置 特別支援教育に対する児童・生徒及び保護者への理解・啓発
チェコ	学校名	<b>プラハ日本人学校</b> <b>Japonska Skola v Praze</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jpschool.cz/">http://www.jpschool.cz/</a>
	受け入れ	原則、受け入れは困難である
	条件	教室移動が1人できる 一斉授業を受けることができる
	担当/資格	特別支援教育の担当者はいない
	特別支援学級	なし(設置予定: なし)
	取り組み	特段の取り組みはないが、グレーゾーンの子どもたちに担当が個別に配慮している
	相談先	臨床心理士の会 With Kids
	他の連携	特になし
	希望する支援	特別支援教育を担当する教員の配置
ドイツ	学校名	<b>デュッセルドルフ日本人学校</b> <b>Japanische Internationale Schule e.V.</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jisd.de/">http://www.jisd.de/</a>
	受け入れ	条件付きで受け入れる
	条件	通常学級での一斉指導が困難な場合は、(保護者の負担及び保護者の責任で) 特別支援員を付けることで通学を許可する
	学年	基本的には全学年
	障害種類	軽度発達障害<LD,ADHD等>
	担当/資格	特別支援免許所持教員 ※ 毎年いるとは限らない
	特別支援学級	なし(設置予定: なし)
	取り組み	特別支援教育コーディネーターが特別支援教育部会を開いたり、必要に応じて就学指導委員会を開いたりして対応する
	配慮	<教育面> 担任による配慮(座席の工夫等) <設備面> 特になし
	相談先	臨床心理士
	他の連携	特になし
	希望する支援	特別支援担当教員の配置(加配として) 専門機関、保護者との連携

ドイツ	学校名	<b>ハンブルグ日本人学校</b> <b>Japanische Schule in Hamburg e.V.</b>
	ホームページ	<a href="http://homepage.hamburg.de/jshh/">http://homepage.hamburg.de/jshh/</a>
	受け入れ	事前に保護者と十分な打合せをして、受け入れの可否を判断する
	条件	障害の程度による
	学年	特定しない
	障害種類	特定しない
	担当者/資格	資格・免許がある。今年度、免許のある教員はいるが、毎年いるとは限らない
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	全教職員で話し合う場を設け共通認識をしている（不定期）
	相談先	転入時に担当医等との詳細な連携
	他の連携	特になし
希望する支援	担当教員の確保（現有数では無理）	
ドイツ	学校名	<b>フランクフルト日本人国際学校</b> <b>Japanische Internationale Schule Frankfurt am Main e.V.</b>
	ホームページ	<a href="http://jifs.de/">http://jifs.de/</a>
	受け入れ	条件付きで受け入れる
	条件	事前の個別面談、保護者の協力 等
	学年	基本的に全学年受入可能
	障害種類	程度と総合的な状況による
	担当者/資格	担当者 / 資格・免許はない（特別支援教育の経験がある）
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	①特別支援教育コーディネーターの任命 ②特別支援委員会を組織し、全校体制で対象児童生徒を指導・支援できるようにしている
	配慮	<教育面> 当該児童生徒に、（保護者の負担及び保護者の責任で）特別支援員を付ける体制を取った上で入学を許可している。 また通常学級での一斉指導が困難な場合は、必要に応じて個別の指導をすることとしている  <設備面> 受け入れ体制により、理事会とも協議した上で必要に応じて整備する
	相談先	あり ①財団法人 海外邦人医療基金 ②独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 ③文部科学省
他の連携	補習授業校及び附属幼稚園との情報交換	
希望する支援	①特別な支援を要する児童生徒を担当できる教員の配置 ②出国前から在籍・帰国まで、保護者と学校が連携して日本語で相談できる支援体制の構築 ③児童生徒へのカウンセリング（医療診察、行動観察、保護者面談等を含む）の実施に向けた関係諸機関との連携 ④施設設備面での受入体制	
ドイツ	学校名	<b>ベルリン日本人国際学校</b> <b>Japanische Internationale Schule zu Berlin e.V.</b>
	ホームページ	<a href="http://www.jap-schule-berlin.de/">http://www.jap-schule-berlin.de/</a>
	受け入れ	要相談
	担当/資格	担当者：資格・免許はない 8名
	特別支援学級	なし（設置予定：なし）
	取り組み	特別支援教育コーディネーターを置き、個別対応体制を作っている
	配慮	<教育面> 特になし <設備面> 特になし
	相談先	特になし
	他の連携	特になし
	希望する支援	専門的な知識を持った教員の加配と適切な教材
	ドイツ	学校名
ホームページ		<a href="http://jis-muenchen.blogspot.jp/">http://jis-muenchen.blogspot.jp/</a>
受け入れ		受け入れる
条件		面接等により個別に判断し、受け入れの可否を決定する
学年		どの学年でも可能
障害種類		面接等による個別の判断結果による
担当者/資格		特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育委員会で検討し、支援している 特別支援学校教諭免許（旧養護学校教員免許を含む）保有者あり
特別支援学級		検討中
取り組み		特別支援教育コーディネーターを中心に「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成するとともに、児童・生徒の実態把握と特別支援教育の在り方について教員の共通理解を図るために年3回特別支援教育研修を実施している 職員数に限度があり、受け入れに関しては、困難な状況にあるが、個別のニーズに応えるべく教育は、個に応じた教育の一部と捉え、特別支援教育の研修を含めて行っている
配慮		<教育面> 障害としてではなく、個性の一部として個に応じた教育を進めている。学級や担任の問題ではなく、学校全体の課題として取り組んでいる <設備面> エレベーター・車いす用のトイレ
相談先		本校スクールカウンセラーを介して、個々のケースにより現地の相談機関
他の連携	現地校との転出入はなかったので情報交換はないが、必要に応じて対応する	
希望する支援	家族の理解 家族と日本での専門機関での様子の詳細 現地の専門医療機関の受け入れ態勢と専門機関との連携をサポートする人材が必要 障害に応じた支援員等の人材確保	
フランス	学校名	<b>パリ日本人学校</b> <b>Institut Culturel Franco-Japonais</b>
	ホームページ	<a href="http://www.parinichi.com/">http://www.parinichi.com/</a>
	受け入れ	条件付きで受け入れる

	在籍者数	0名(2019/9/1現在)
	条件	・基本的な生活習慣の自立 ・保護者、シッターの付き添いが可能である ・事前の個別相談の上、受け入れを判断する
	学年	全学年
	障害種類	軽度の障害
	担当者/資格	担当者：1名 資格保有者：3名 *特別支援教育担当者は資格を保有していない
	特別支援学級	なし
	取り組み	個のニーズに応じた指導 特別支援教育コーディネーターが特別支援教育委員会を開いたりして対応している
	配慮	<教育面> 個に応じた取り出し授業の実施 <設備面> 子どもたちが集う教室の設置
	相談先	あり(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) (財団法人 海外邦人医療基金)
	他の連携	なし
	希望する支援	保護者との子どもたちに対する教育指導の共通認識 特別支援担当教員の配置(加配として)
英国	学校名	<b>ロンドン日本人学校</b> <b>The Japanese School in London</b>
	ホームページ	<a href="http://www.thejapaneseschool.ltd.uk/nihonjingakko/index.htm">http://www.thejapaneseschool.ltd.uk/nihonjingakko/index.htm</a>
	受け入れ	受け入れていない 理由：現状として、人的・物的環境が整っていないため
	特別支援学級	平成30年度現在 特別支援学級はない
	相談先	特になし
	他の連携	なし(転出入に関しては通常の手続きや問い合わせ等には応じている)
	希望する支援	専門的な知識を持った教員の人的支援

## 中近東

U A E	学校名	<b>ドバイ日本人学校</b> <b>Japanese School in Dubai</b>
	ホームページ	<a href="http://www.japanese.sch.ae/">http://www.japanese.sch.ae/</a>
	受け入れ	受け入れは困難である
	特別支援学級	なし(設置予定：なし)
	相談先	研修の一環として、発達障害教育情報センターの研修講義コンテンツを全職員で受講している
	他の連携	複数のアラブ人現地校と国際交流しているが、日本人子女の受け入れはない。インターナショナル校とは児童・生徒の編入退学がある
	希望する支援	教員の増員と学校施設環境の整備が必要と思われる
ケニア	学校名	<b>ナイロビ日本人学校</b> <b>The Nairobi Japanese School</b>
	ホームページ	<a href="http://www.ke.emb-japan.go.jp/jschool/schoolindex.html">http://www.ke.emb-japan.go.jp/jschool/schoolindex.html</a>
	受け入れ	受け入れる
	条件	程度により運営委員会と協議し、校長が判断。現有教員で対応できる発達状況が条件の1つとなる
	学年	全学年
	障害種類	障害種ではなく、程度
	特別支援学級	なし(設置予定：なし)
	取り組み	・特別支援コーディネータの指名 ・個別の指導計画作成 ・個別の教育支援計画作成
	配慮	<教育面> 個に応じた指導 <設備面> 個の状況に応じた環境整備
	相談先	大阪大学 臨床心理士
他の連携	必要に応じ連携	
希望する支援	・教員数の確保 ・特別支援教育の専門的な資格を持つ教員の配置	

## 大洋州

オーストラリア	学校名	<b>シドニー日本人国際学校</b> <b>Sydney Japanese International School</b>
	ホームページ	<a href="https://www.sjis.nsw.edu.au/">https://www.sjis.nsw.edu.au/</a>
	受け入れ	受け入れについて協議・検討し、最終的には学校長が判断し決定する 理由：特別支援学級がないため、また、適切に受け入れるための(人的・金銭的)環境、施設・設備の態勢が整っていないため、受け入れの可否について協議検討した上で受け入れる
	条件	特別な教育的支援を必要とする児童生徒の保護者が本校と協議し、適切に受け入れるための(人的・金銭的)環境づくりを了承した場合に、受け入れ可否を検討する。最終的に学校長が判断し承認した上で受け入れる
オーストラリア	学校名	<b>パース日本人学校</b> <b>The Japanese School in Perth</b>
	ホームページ	<a href="http://www.japaneseschool.wa.edu.au/">http://www.japaneseschool.wa.edu.au/</a>
	受け入れ	受け入れていない
	在籍者数	0名(2019/9/1現在)
	学年	なし
	障害種類	なし
	特別支援学級	なし(設置予定：なし)
	相談先	なし
希望する支援	特別支援学級設置もしくは特別支援担当教員補充のための施設面や予算面での改善が整っていない	
オーストラリア	学校名	<b>メルボルン日本人学校</b> <b>The Japanese School of Melbourne</b>
	ホームページ	<a href="http://www.ism.vic.edu.au/">http://www.ism.vic.edu.au/</a>
	受け入れ	受け入れ条件参照

条件	転入学の希望があった場合は、保護者や現籍校から情報をもらいながら、保護者と十分話し合った上で受け入れを決定する
学年	全学年（小1～中3）
障害種類	個別に検討する
担当/資格	資格保有者1名
特別支援学級	なし（設置予定：なし）
取り組み	全職員で毎年、特別支援教育に関する研修を実施している
配慮	<教育面> 個別の状況に応じて可能な限り配慮するが、詳細は保護者との相談の上決定する <設備面> 身障者用トイレ、一部スロープの設置あり
相談先	なし
他の連携	なし
希望する支援	専門の知識を持った人的支援、または障がいの程度に応じた支援員の配置が必要